



有松まちづくりの会 総会開かれる（6月22日）

延期されていた総会が、6月役員会に先立ち略式で行われました。竹田嘉兵衛会長の挨拶の後、事業計画案並びに収支予算案の審議が行われ承認されました。前年の日本遺産認定に伴う諸活動（ワークショップや調査研究等）を引き継ぐと共に、町並みゼミ東海ブロック大会「有松大会」の開催を目指します。また、世話人制度やかかわら版配布等の内部体制見直しの検討も進められます。



NPO法人コンソーシアム有松 総会開催（6月17日）

コンソーシアム有松の総会が竹田家三番蔵で、コロナ対策を施して開催されました。菊池緑区長様、中里名古屋市議会議長様始めご来賓をお迎えし、中村理事長の挨拶で開会。事務局より、有松日本遺産元年である昨年の、超多忙な取り組みの報告やウイズコロナの本年度の活動計画などが発表され、会員により承認されました。短時間ではありましたが充実の一時でした。

有松の賑わい ちよっぴり戻る

緊急事態宣言の解除以降、有松にも人出が徐々に戻ってきました。特に、絞りまつりが予定されていた6日7日は、すっきりとした晴天に恵まれたこともあり、以前の週末の賑わいが見られました。

お店を廻ると「マスクは売れるが、売り上げはなかなか」の声がありました。

公開が再開された岡家住宅では、両日90名前後の方々が見学されていました。マスク着用、消毒、検温。感染予防のため館内ガイドは見合わせていました。

15日には町並みの案内も再開されました。あないびとの会では、ガイド1名につきお客さん5名を案内、通常の半減。この日は、桜花学園の学生さん35名が熱心に町並み・山車会館・岡家住宅を見学されていました。



左：東海道



右上：竹田嘉兵衛商店

右下：T-Ryuju



岡家住宅の見学者

見学中の学生さん

桶狭間古戦場保存会 総会開催(6月5日)

特定非営利活動法人「桶狭間のまちづくりと桶狭間古戦場を保存する会」（略称「NPO法人桶狭間古戦場保存会」）の総会が、緊急事態宣言解除を受け、桶狭間公民館で開かれました。コロナ禍を考慮し、出席者は理事および運営委員のみの少人数でした。

冒頭理事長挨拶で梶野泉氏は「名古屋まつり、緑区民まつり、桶狭間古戦場まつりなど、多くの行事が中止されますが、今年は銅像建立10周年を契機とした『桶狭間の戦い 秋の陣』を11月1日に是非実施したい。また、桶狭間小学校から万灯会の灯ろうを全員で作りたいとの申し出もあり、桶狭間を盛り上げていきたい。」と決意を語られました。議事は異議なく終了しました。

有松天満社で虫干し(6月7日)

コロナ禍により、例年4月の日曜日に文嶺講により行われていた天満社の虫干しが行われました。

すっきりとした晴天のもと、倉庫から運び出されたのぼりや提灯が中広場に並べられ、日干され風に当てられました。副総代長鈴木章二さん始め10名程の方が作業に取り組まれました。提灯の中に新聞紙を入れナフタリンを入れる作業を見学しましたが、200個以上もあり大変そうでした。

この日、中町と西町の山車倉でも虫干しが行われていました。（東町は6月28日に実施）また、虫干しに合わせて中町年行司では御守りや御朱印帳などの販売が行われていましたが「売り上げは例年の半分以下です」とのことでした。



天満社 中広場での作業風景



中町の山車倉

西町の山車

有松絞りの七夕飾りづくり(6月7日)

祭りまつりが予定されていた6日7日、まちを元気づけようと色々な企画が行われていました。その一つ、絞会館ではNPOコンソーシアム有松の主催で七夕飾りづくりが行われました。

天候にも恵まれ、多くの参加者が集まっていました。参加者は大小2枚の生地を受け取り、それを帯状に細長く折ります。三角形に順次折っていき、最後に両端に板を挟みます。出来たところで、駐車場に移動し染色です。折り曲げた角を染色液に浸すと花模様ができあがり。雪花絞という技法を体験しました。水洗いの後、生地を広げるとどの参加者も笑みを浮かべます。

小さな生地はハンカチとして参加者のお土産。大きい方は短冊にして、有松の皆さんに願いを書き入れていただくとのことです。できあがった短冊は以下の予定で展示されます。



有松・鳴海絞会館にて

「有松七夕ストリート」
6月26日(金)~7月7日(火)
東海道沿いに展示されます



知ってますか？ 絞りまつりのこと(2)

2 戦後の絞りまつり

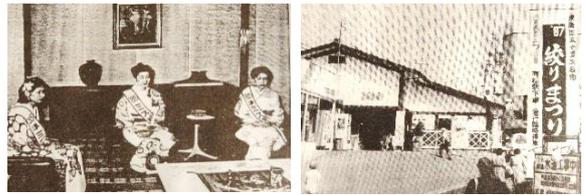
有松まちづくりの会ができて10年程の昭和59年3月は、有松にとって大きな節目の年であった。それまでの地道な努力が実り名古屋市町並み保存地区第1号に指定され、また有松・鳴海絞会館が開館された年でもあった。その翌年の昭和60年から現在の絞りまつりはスタートし、以後毎年6月の第1土・日に定期的に行われるようになった。有松全体の商工業者の繁栄と有松の知名度アップがまつりの目的だったようである。

絞りまつりに先立って、有松商工会主催で「商工祭り」が10年以上行われてきた。絞りを中心に有松で作られている商品を廉価で提供していた。当時有松小学校西側にあった公民館を会場に1日1000人位の入場者があったそうである。商工祭りを更に盛り上げるため、伝統工芸品の絞りと町並みを前面に出して絞りまつりが企画された。

第1回の絞りまつりは、今に続くまつりの原型が形づくられた。ミス絞りの選出や音楽隊を先頭とするパレードの実施である。2日間で予想を上回る4万人が有松を訪れ、東海道は人で埋め尽くされた。「余りの人出に驚いた」との感想が寄せられたそうである。年々盛んになり、有松の欠かせない行事として定着してきた。何よりも、その後有松を訪れる方が目に見えて増加した。

昭和63年の第4回絞りまつりは、山車会館の開館もあって6.5万人の人出。売り上げも5700万円あり大成功だったそうである。浴衣ブームの再来もあってか、当時低落傾向にあった商戦に歯止めがかけられた。成功の要因としてジャンボ浴衣の制作・展示があげられる。まつりに取り組む人の輪が広がりを見せたということである。

参考文献：有松まちづくりの会会報「有松」(5号・10号・13号)



第1回(ミス絞り)

第3回(駅前看板)



第4回(パレード)

投稿 有松スケッチ3

湯地昭夫氏
(最終回です)



井桁屋



服部良也家土蔵と主屋

シリーズ地域活動 有松コミュニティセンター

平成19年に開館した有松コミセンは、有松の地域活動の拠点ともいえる場所です。月に30を越すサークル・グループが定期利用しており、また有松まちづくりの会役員会を始め地域の会合や集会にも使われています。

会館の運営は学区連絡協議会が行っていますが、その中心が有松学区区政協力委員長の小澤武夫さんです。開館以来13年にわたり有松学区全体のまちづくりの先頭にたって取り組まれてこられました。5月中旬にお話を伺いました。

「新型コロナの影響で閉館中ですが、毎日会館に来ています。短時間でも開館していることがまちの活気になると思うから。自主防犯パトもできるだけ走らせています。このような不安定な時期こそ必要です。遊んでいる子どもが手を振ってくれるのが励みになります。13年前会館建設を進めていた前任者から委員長を引き継いだとき、会館の外観をより有松らしく設計変更したことが思いおこされます。」

隣のありまつ公園の「アジサイ有松」「桜(ソメイヨシノ)」「藤棚」への水やりを欠かさないなど、まちづくりへの熱い思いが伝わってきました。



有松コミセン外観

ありまつ公園の花

アジサイ



ソメイヨシノ 藤



HPの紹介 その4「有松の重伝建」

有松まちづくりの会は、「町並み保存地区」に指定された後も、より保存力が強い重伝建選定活動が続けられました。第1回は住民の同意者が少なく断念、第2回は同意書を市に伝達しましたが成功しませんでした。第3回は市が新設した歴史まちづくり推進室と数年にわたる協同推進により、平成28年に重伝建の選定を受けました。

HPでは特定された建造物や環境物件を1件ごと解説しています。

《「有松の重伝建」の呼び出し方》

「有松のまち」入力→検索→「有松のまち」の「有松の重伝建」→「見たい建造物」→「説明文」

催事・行事の予定

- 6月26日(金)～7月7日(火) 有松絞り七夕ストリート 東海道 NPO法人コンソーシアム有松
- 7月05日(日) 09:00 有松東海道青空市 商工会周り 青空市運営委員会
- 7月26日(日) 07:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会
- 7月27日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 コミセン

発行者:竹田嘉兵衛(有松まちづくりの会 会長)

編集者:加藤 一成(有松まちづくりの会 広報部員)

T・F 052-623-1676 090-4163-2671

E-mail katoisse@mc.ccnw.ne.jp

有松まちづくりの会は、ホームページを公開しています。

有松のまち

検索